

# 簡易育苗法

中原 忠 夫

- 二五〇 六日 一日 五三% 一二・三
- 三〇 五 八 六〇 一八・九

みつけて適温に持つて行くようにする。箱の周囲は葎なり藁でかこい、箱の上にはガラスかビニールをかぶせる。

三 播種床

四 床土

播床には温床がつきもので、熱源として電熱なり酸熱材料が用いられていることはご承知のことと思うが、小面積の温床をこしらえ、熱源に良い酸熱材料を使つたとしても、思うように熱が出ないものである。そしてかりに障子一枚なり一坪の床をこしらえらるとしても、早生甘藍、トマト、茄子、キュウリなど全部を一度に播込むことは出来ぬ。それぞれ時期があり、播種床に時期をかえて多くの種類をつぎつぎに播いて行くということは管理上思わしくない。して見ると普通の温床によると無駄が多いこととなる。

床土は苗を養う土であるから、物理性、化学性ともに理想的なものであることが望ましい。床土の条件としては、膨軟で固くならず、水はけが良くても保水性にも富み、肥えた上病害虫の惧れないものでなければならぬ。このような土は普通の畑土にないのであるから、前年の内から予め培養しておかねばならない。培養土の作り方は、腐熟した堆肥と野菜類を作つたことのない畑土とを交互に堆積し、数回切返しを行い、その際下肥、油粕類、木灰、過燐酸石灰などを加えておく。堆肥は多い方が良く、特に菜園にては移植回数を少なめにして植えるべきであるから、根の状態から見ても堆肥を半量くらい加えたものが良い。床土の色であるが、太陽光線の吸収という点から見ても黒い方が優る。床土の色は堆肥の量が多くても用いる土によつて黒色にならない場合があるので、粗穀の燻炭のようなものを混ぜてなるべく黒色にすることが、播種床だけでなく移植床を冷床で持つて行く場合大切である。

そこで蜜柑箱などの小箱を利用してストープの側で発芽させ、日中は出窓などを利用して日光を与え、ある程度までの稚苗を育てておいて、温床なり冷床に移植することも考えられるが、四月上、中旬はかなり天候も不順で寒い日も続くことが多く、人工的に熱を与える方法はえてして失敗する場合が多いのである。むしろ既肥を堆積してある上部に播床をこしらえる方法が温床も期待し得るし、管理もしやすいのではないかと思う。

この方法は浅い木箱（魚箱など）を利用すると良い。に床土を入れて、堆積してある既肥の上部の湯気が出ている部分におくようにする。まずその部分の温度を測つて見て二五〜三〇度くらいのところを選ぶ。全般的に高温の場合は灌水するなり、良く踏

トマトや茄子、早生甘藍などの苗は自分で育てた方がよいということ先月号で述べたが、育苗は却々厄介な作業であり、また自家用菜園での所要苗数は極めて少なく、大抵五〇〜六〇本宛もあれば足りるのである。専業農家や苗屋のように温床を設けての育苗は相当資材もかかり、実際植える苗の数から見ると不経済なばかりでなく、温床の踏込などかなり経験が必要である。そこで手間も資材もかけずに、育苗するにはどうしたら良いかということを見ることにする。

かくなつて来た頃始めるのが無難である。晩霜の危険がなくなるのは六月始めで、それから逆のぼつて五十日前頃播くのが、育苗管理の上にも無理がなく失敗が少ない。ただ早生甘藍は育苗中の温度は大して高くなくても良いので、四月の始めに取りかかつた方がよい。

## 二 発芽温度

作物のすべてはその種類によつて発芽適温があつて、それ以上高温になると発芽が悪くなり、またそれ以下の温度では発芽に日がかかつて発芽率も低下するものである。

## 発芽適温

種類名	適温(℃)
スイカ、カボチャ	三〇度
ナス、トマト、ナンバン	二〇〜二五度
キャベツ	二〇度
温度と発芽の発芽	
温度 最初の 最終	発芽率 発芽速度
発芽日 発芽日	〇% 〇

一八	一三	二三	二二	六・二
----	----	----	----	-----

一 播種の時期

一応札幌を中心として考えて見るに、専業農家の播種時期は、トマトで三月中下旬、茄子は三月下旬から四月上旬、早生甘藍は三月上中旬というところであらう。ただ最近の傾向としてはかなり早播になつて来ている。ところが圃場の早播を考へない（ビニール促成等）早播は苗にとつて有害無益の場合が多い。トマト、茄子で自家菜園の場合を考えると、雪も消えかかり、かなり暖

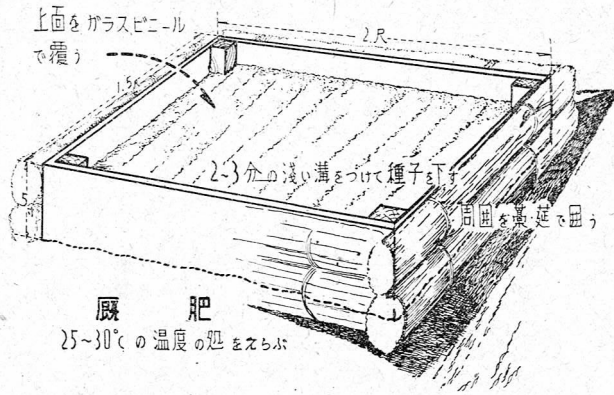
この培養土のない場合は、腐熟した堆肥を篩でふるつて、これに肥えた畑の表土を半分くらい混ぜて利用すると良い。このような床土を使う場合多量の化学肥料を混ぜることは危険であるが、少量の硫酸と過燐酸を施すと稚苗時の生育を促進することができる。

床土の厚さは播床で三寸あれば良いが、灌水などによつて落ちて浅くなるから四寸くらい入れ、(移植床は五寸くらい入れ)土を平均にならし、障子をかけ、その上を藁等で覆つておくと次の日までには床土の温度が上つているから播種にとりかか

### 五 播種一法

種子は播種前微温湯に浸し、ストープの傍らにおいて、丸一昼夜位吸水させて播くと、発芽が早まり一斉に揃う。

簡易播種床略図



良い。種を下ろし終るとやや小さめな篩でふるつた土を条をけすようにしてかける。水は細い如露でやや多めにやる。播種の日はなるべく暖い日を選ぶべきであるが。温湯でぬるめて灌水すると良い。灌水は播種時以後発芽までやらなくても良い。乾いた始めにやるべきで、発芽後多湿になるお

それが有り、特に発芽が不揃の場合には始めに発芽したものを徒長さす結果となる。それで灌水後すぐつた藁を長さ一尺くらいに切り揃え、一本並び程度の薄さで良いからかける。床面の乾燥を防ぐに役立つ。立枯病の心配のある場合は、播種後木灰を床一面がやや白くなる程度散布しておく

か灌水の際、灌水量の約半量をウスブルンの八〇倍液としてかけておくと、ある程度防ぐことができる。

### 六 発芽後の手入れ

葉除け 播種後五日〜一週間くらい経つと発芽して来るから藁をのぞいてしまふ。この作業がおくると徒長して、葉を除く際葉にからまつて苗をいためるから注意が必要である。なお発芽の揃わない場合、(主として

床の温度の影響によつて起る)発芽した部分から除くようにする。そのため藁は短かに長さを揃えるわけである。未発芽の部分に藁を残すことは発芽後の換気によつてその部分の乾燥を防ぐに役立つ。

### 換気 発芽まで床は密閉して過湿状態

におくので、苗は芽を切るとうつつかりすると直ぐ徒長してしまう。そこで換気が大切

で、外温を考えて無理な換気を行わないようにして徐々に行う。

### 温度 この播床はあくまで厩肥の発熱

を利用するものであるから、厩肥の量の多い場合はなおさら温度に絶えず注意しなければならぬ。うつつかりして苗をやいてしまつた等の話を聞いたこともある。播床は小型でも箱に納めてあるので、高温に過ぎる場合、また高温のおそれのある場合は、箱ごと厩肥上を適温の位置にずらすか底部に藁などをはさむかして常に適温状態におくようにする。

発芽の適温と発芽後の生育温度が一樣なものかといえれば決してそうでない。苗の生育が進むにつれ、その生育適温はだんだん低くなるものであるから、発芽当時の稚苗期は生育を進める意味から、やや発芽適温に近い温度で育苗をする方がよい。その後には発芽適温より三〜五度C低い方が安全でトマト、キュウリは二〇度前後、茄子は二〇〜二五度、甘藍類は一五〜二〇度くらいを標準として温度管理をすべきである。

### 間引 果菜類では前述のような温度管理

をして行けば、トマトやキュウリでは花芽の出来るのが早い。トマトでは本葉二枚くらいになると、すでに実のなる花芽が出来るのである。このように栄養生長による茎葉の伸長と、生殖生長である花芽の分化と併行して行くもので、他の作物以上に同化作用が大切である。光線について案外等閑視され勝であるが、むしろ温度以上に大切でないかと考えられるので発芽後はなるべく早めに間引いて十分光線を利用するようにしてやるのが大切である。苗数

を数えて出来るだけ間引くようにする。なお障子の面と床の面との間隔を狭めることも大切で苗の上部と障子の間は播床では一寸くらいに保つと良い。以上簡易育苗法の発芽後の管理まで述べたが、移植などの作業については次号で取上げることにする。

### (附) 玉葱の移植栽培

最近玉葱の移植栽培が、ネギウジの発生が多くなつたこと、種が年により高価なことがあり鉋路などで従来うまく作れなかつた地帯でも作りうる等の点からかなり普及して来ている。

札幌黄玉葱系の品種は長日な程肥大が良いので、早めに播種して苗の発育を進めることが品質収量を良くすることになる。播種期は三月下旬〜四月上旬が良い。大体玉葱の発芽温度も、生育温度も低温で良い。すなわち苗床に藁をこしらえ障子を覆うだけで播種出来る。播種量は坪一・五合くらい播き、床温は発芽当時も一〇〜一五度くらいがむしろ良く、二〇度くらいになり床面が乾燥すると生理的立枯が起るから注意が必要である。発芽後は混んだところは間引いてなるべく健苗を育てるようにする。苗床日数三十日くらいで圃場に出すのであるが定植一週間前から徐々に障子をはずして外気に馴らすようにする。定植期は外温の点からも五月上旬頃が活着も良い。苗床の床土はなるべく肥えていることが必要で、圃場も湿り気があり酸性がかつたところをさけ、日当りの良い肥沃な場所をえらぶようにする。苗の定植距離は一尺くらいの畦に四寸間隔に一行植とする。

(雪印種苗産之沢育種場)